

Data Foundation for Innovation — データの力で未来を拓く

「2025年12月に開催した『Hitachi Vantara Exchange Japan 2025』の
基調講演の一部を再編集してご紹介いたします。」

2026年1月

株式会社日立製作所

AI & ソフトウェアサービスビジネスユニット

マネージド & プラットフォームサービス事業部

フロントエンゲージメント推進本部長

橋本 進太郎





データのパを解き放つ

Foundation

大量のデータをAIが有効活用するためには
どのようにデータを管理すれば良いのか？

40%

“調査対象となった組織の約40%が、「データの不足」を自社でAIを支援・導入する際の最も重要な課題トップ3の一つとして挙げている。”

10%~30%

“企業内のデータのうち、構造化されているのはわずか10%~30%。残りは非構造化データ。非構造化データをAIで活用可能な状態にするには、構造化データよりも多くの**専門知識とツール**が必要となる。”

75%

“75%以上の組織が、今後2~3年において「AI活用に適したデータ」が投資分野の上位5つに残り続けると述べている。”

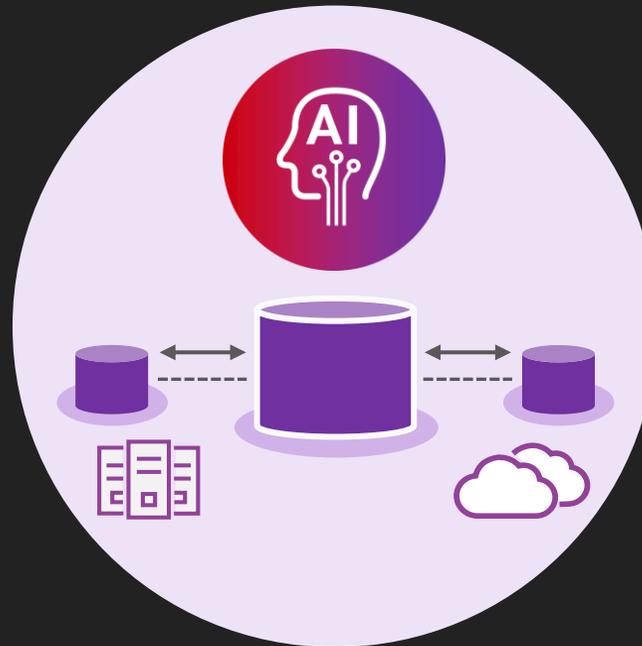
貯める



大量データを
効率よく格納する

- 高い容量拡張性
- 高密度なデータ保存
- シンプルなデータ管理

使う



データを
AIで活用しやすくする

- 多様なデータの所在
- 各種データ形式への対応
- 多岐にわたるアプリケーション

守る



データを
確実に保護する

- ランサムウェアへの備え
- データ品質確保
- ビジネス継続性の担保



データのパワーで未来を拓く
Innovation

急進する車載製品の生産ラインを支える 高信頼ITインフラへの刷新

止まることが許されない生産ライン、
そのデータ活用を支え、将来的な拡張性も備えるシステムを実現

日立ヴァンタラ製品が
高く信頼されている理由は、
製造に携わるようになってわかりました。
試験の数が圧倒的に多いのです。

UMC・Hエレクトロニクス株式会社
代表取締役社長 水越 浩幸氏



目標性能

400%

(従来比)

将来の生産ライン
拡張にも対応

計画外停止

0日

システムの移行支援に
よって業務停止を回避

生産性効率向上に寄与したのは日立のストレージ



高性能で高効率な
データ圧縮



投資コスト・ランニングコスト
最適化・計画的な管理

将来の拡張を見据えた
拡張性と安心データ移行



業務への影響を
極小化

国内エンジニア対応保証による
充実サポート



事業継続性への
安心感

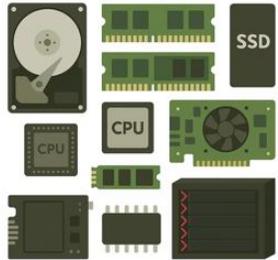
徹底的なAIによるデータ分析・フィードバックでコスト削減、生産時間短縮、品質向上

調達

製造

販売・サービス

4,000以上の
部品から構成



世界40カ国で稼働
ミッションクリティカル
なシステムを支える



需要予測
部品調達・
生産計画 最適化

スマート倉庫
自動部品配置

生産作業ナビ
作業均一化・品質向上

稼働監視・故障予測
予防保守による安定稼働

製造～検査プロセスの見える化・分析・フィードバック

Powered by AI

各部門で発生する
データの連携

調達

製造

物流

営業

サービス

生産アプリ

オンラインDB

ERP

CRM



ハイブリッドクラウドによるデータの一元的な利用

Data

Data

Data

Data

Data

Data

Data



エッジ



オンプレ



クラウド

調達

製造

販売・サービス

コスト削減

欠品はゼロで
予備在庫コスト

40%

削減^{*1}

生産効率向上

品質を維持しながら
製造リードタイム

25%

短縮

安定稼働支援

障害予測の高度化による
コントローラ交換率

75%

改善^{*2}

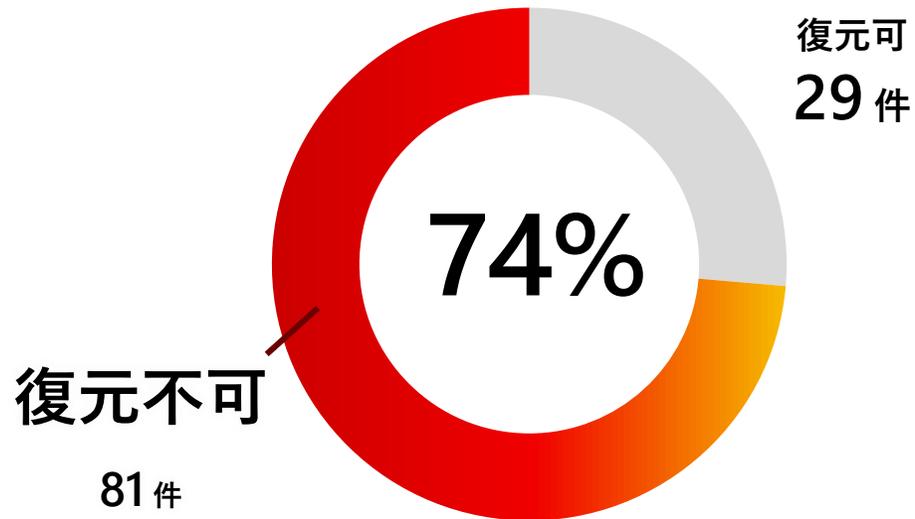
*1 2023年4月時点との比較

*2 2022年8月を基準とした交換ゼロに向けた改善指標

ランサムウェアの発生件数は年間約200件に達しており、件数は増加傾向
復旧までに数カ月以上を要するケースや、巨額の損失が発生した事例も

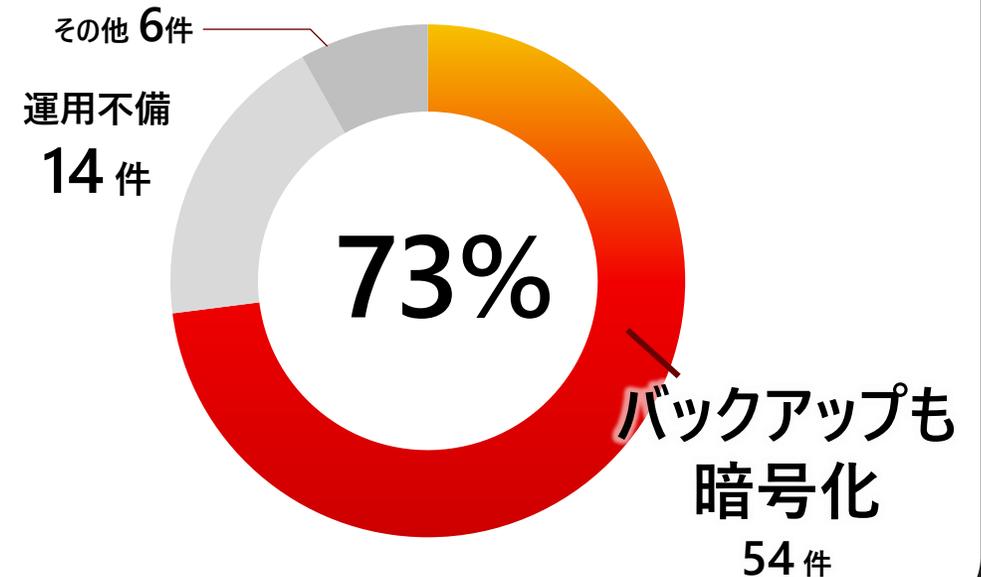
被害の多くがバックアップからデータ復元不可

バックアップデータからの復元

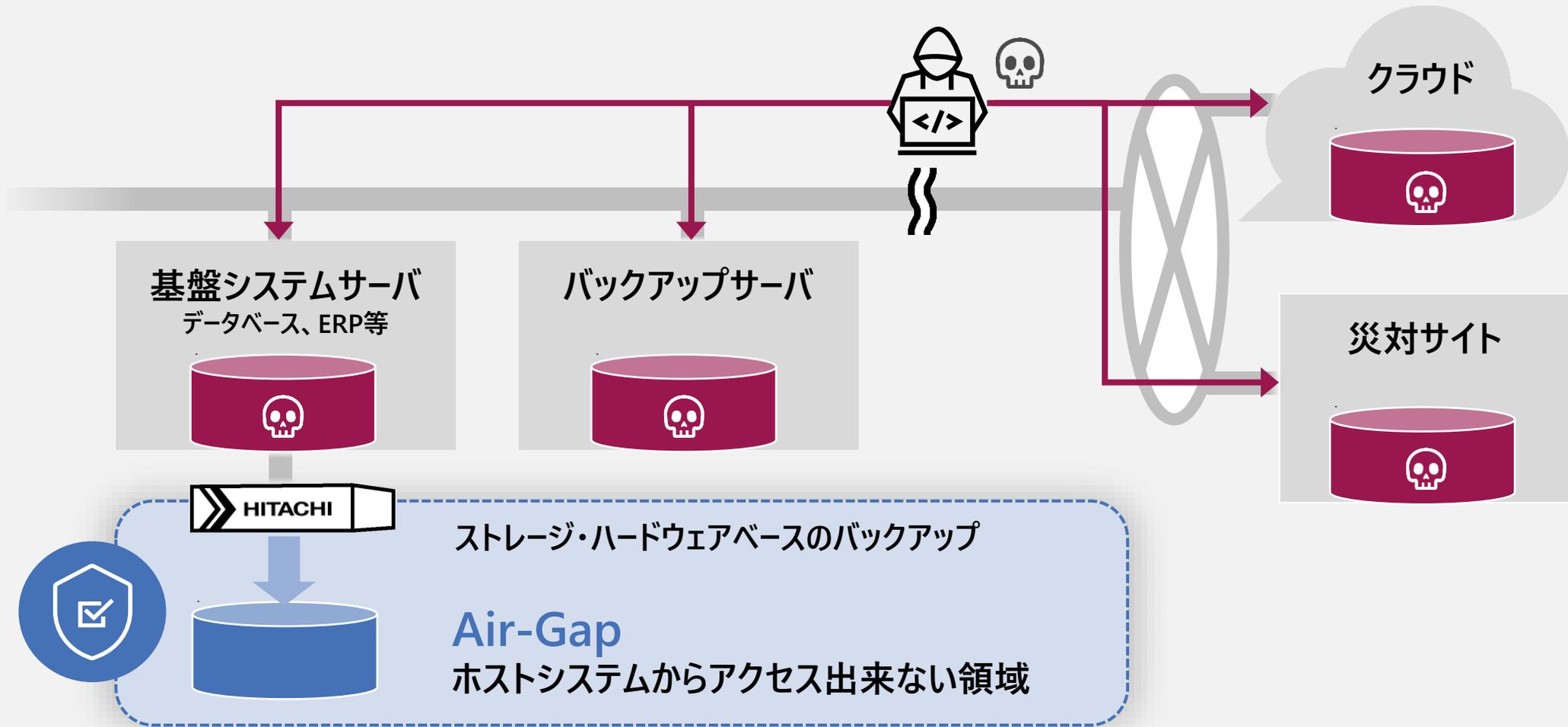


バックアップデータが攻撃の対象に

復元できなかった理由



従来の障害・災害対策向けバックアップでは不十分、サイバー攻撃からデータを保護する仕組みが必要



ランサムウェアは“データ破壊”が本質

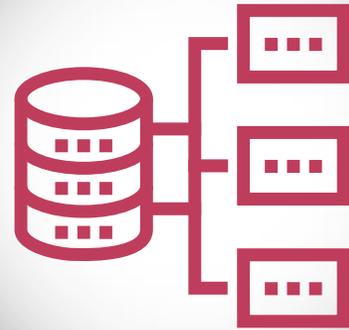
攻撃をすべて防ぐことは不可能

破壊されない
“完全にクリーンなバックアップ”
が最終的な「命綱」
これがないと何をしても戻らない

復旧可能な状態のデータを確実に取ることが
ビジネス継続の鍵に

貯める

大量データを
効率よく格納する



データ

守る

データを
確実に保護する

使う

データを
AIで活用しやすくする

Data foundation for innovation
データから価値を引き出し、イノベーションを起こす



日立製品のご紹介

Products

最新AI開発環境に最適化されたパッケージ製品を提供

NVIDIA

AIソフトウェアなどの高い技術

先進的なGPUおよび生成AI向けツール

戦略的パートナーシップにより
相互の革新的技術を融合

日立

OT分野でのドメインナレッジ

次世代サーバー・ストレージ

Hitachi iQ

NVIDIAの最新AI機能をベースに日立の次世代ストレージを組み合わせた
AIインフラのパッケージ製品を提供



NVIDIA
GPUサーバー



日立
次世代ストレージ

'24年
7月

国内販売開始

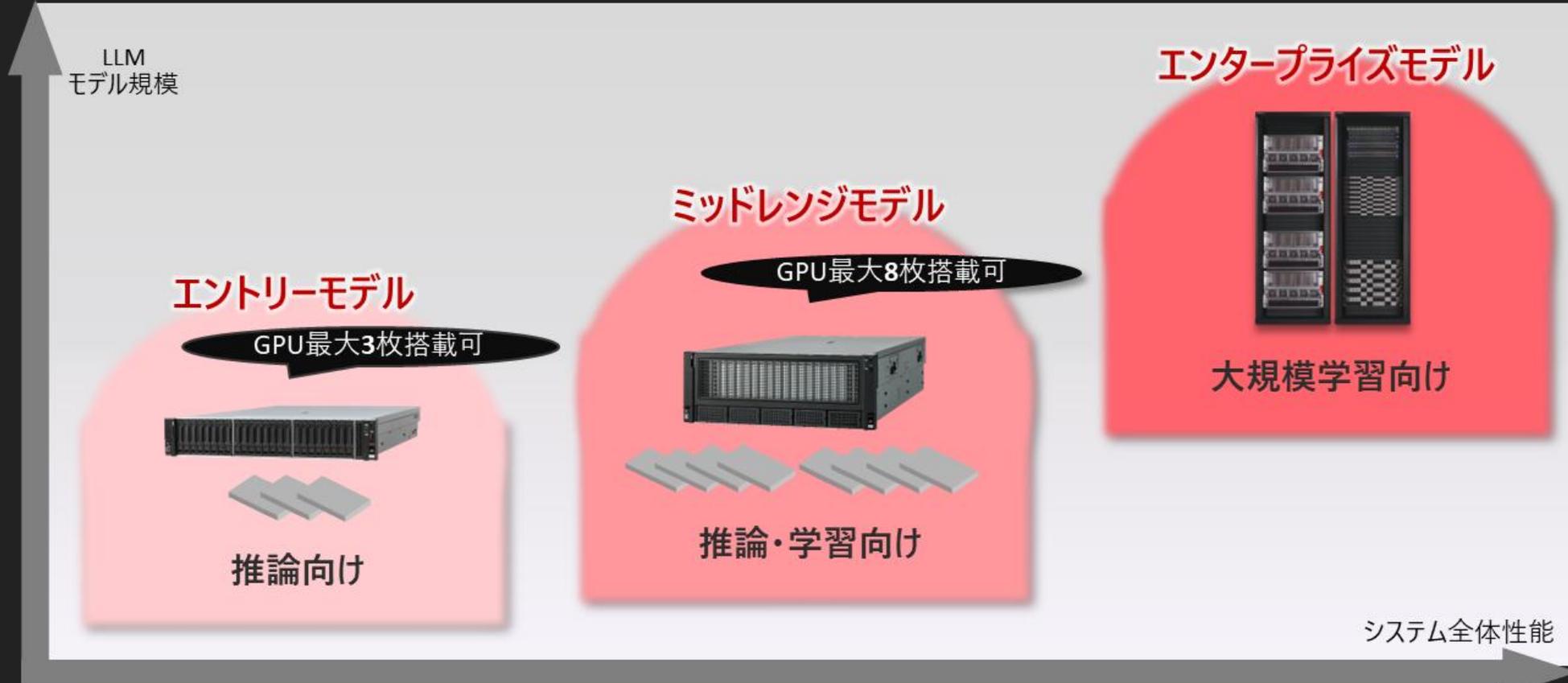
'24年
10月

コンサルサービスとの連携

'25年
4月

ラインアップ強化

中規模構成の推論や小～中規模LLMの学習に適したミッドレンジモデルと 小規模構成の推論環境やPoC用途などに適したエントリーモデルをラインアップ

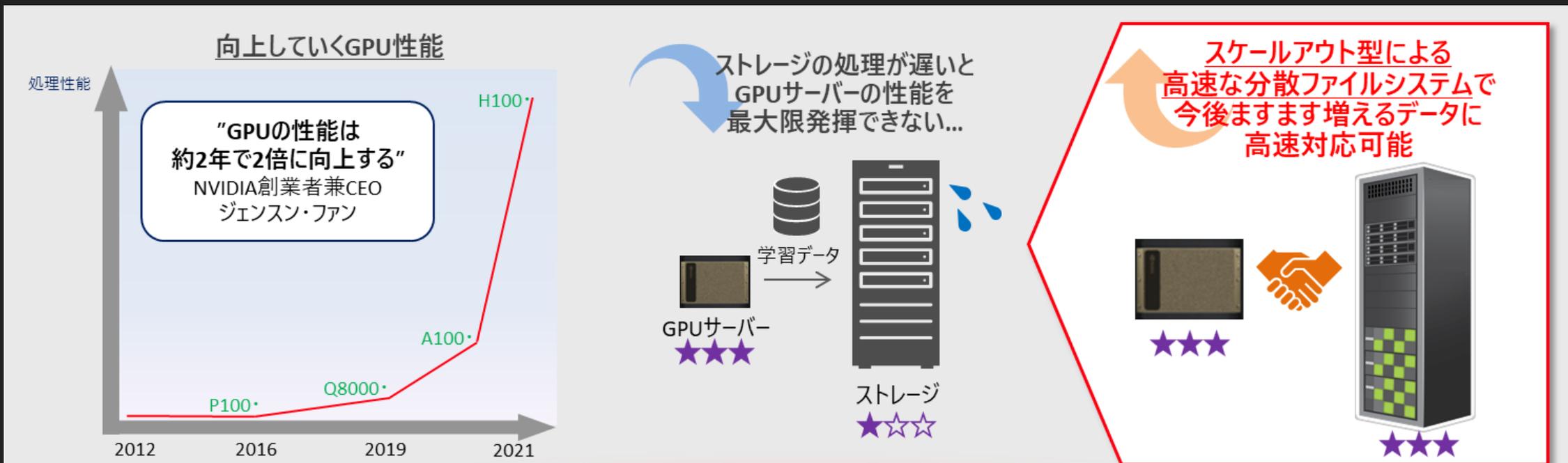


★コンサルティング・サービス「AI Discovery Service」でお客様に合わせた生成AIの導入・活用を支援します★

★月額提供のas a Service型「Hitachi EverFlex」で初期投資を抑えられます★

GPUの処理能力向上と分散学習により、学習できるデータ量が急速に増加

ストレージに求められる処理能力は上がっている



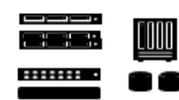
GPU性能のみ目を向けがちですが...
大量の学習データを高速に供給できるストレージ(分散ファイルシステム)がGPUサーバーの稼働率を最大化します

ストレージ・サーバを中心としたデータインフラストラクチャソリューションを提供

サーバ	アドバンスドサーバ (X86)			エンタープライズ (UNIX)		メインフレーム	ミドルウェア
	 <p>HA8000V(UPS,KVM,LTO含む) RV3000</p>			 <p>EP8000</p>		 <p>AP10000</p>	 <p>統合システム運用管理 JP1 One Platform™ On-premise Hybrid Multi cloud</p>

ストレージ	ミッドレンジストレージ		ハイエンド		クラウド	管理ソフト	バックアップ
	 <p>VSP One Bシリーズ</p>		 <p>VSP Eシリーズ、G/Fシリーズ VSP5200/5600</p>		 <p>VSP One File VSP One SDS Block</p>	 <p>Hitachi Command Suite Ops Center</p>	 <p>L711 L722 L744 DMV</p>

AI	AIプラットフォーム Hitachi iQ			
	 <p>HA8000V 小中規模向け NVIDIA GPU搭載サーバ</p>	 <p>大規模AI基盤向け アプライアンス</p>	 <p>高性能分散ファイルストレージ + オブジェクトストレージ</p>	 <p>分散ファイルストレージ (Hammerspace)</p>

サービス	as a Service型ITプラットフォーム EverFlex	
	 <p>ITプラットフォーム (お客さまサイト)</p>	 <p>保守/サポート 運用</p>
 <p>基本料金 従量料金 従量課金型で提供</p>		

保守 日立サポート360(HW24時間保守)

HITACHI

END

Data Foundation for Innovation
— データの力で未来を拓く

■他社商品名、商標などの引用に関する表示

各社のロゴ、会社名・サービス名・製品名等の商標は、各社の商標、または登録商標です。

■製品・サービスの仕様に対する表示

本資料に記載の製品・サービス仕様は、2025年12月現在のものです。
製品・サービスの改良などにより予告なく記載されている仕様が変更になることがあります。